

# 関西経済レポート

中国・アジア向けの輸出増加に牽引されて、生産は持ち直しの動きが続いているものの絶対水準は依然として低い。消費は、エコカー補助金の終了が大きな懸念材料。住宅投資は、政策効果により持ち直しの動きがみられる。雇用環境は、持ち直しの動きはあるものの、厳しい状況が続く。

今後のリスク要因としては、引き続き円高や欧州の信用不安、米国経済の減速に対する注視が必要。

2010年9月16日

関経連経済調査部

## ～目次～

政府・日銀の景況判断	1
日銀短観	2
設備投資	3
生産、大口電力需要	4
輸出入	6
個人消費	10
住宅投資	13
株価為替の動き	15
倒産	16
雇用	17

# ～政府・日銀の景気判断～

	<b>近畿</b>	近畿地区金融経済概況 日銀大阪支店	<b>中部</b>	金融経済月報 日銀名古屋支店	<b>全国</b>	金融経済月報 日銀	<b>全国</b>	月例経済報告 内閣府
2009年7月	↗	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	↗	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まっている。	↗	わが国の景気は下げ止まっている。	↗	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年8月	⇒	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	⇒	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まっている。	⇒	わが国の景気は下げ止まっている。	⇒	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年9月	↗	なお厳しい状況にあるが、下げ止まっている。	↗	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	↗	わが国の景気は持ち直しに転じつつある。	⇒	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年10月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	↗	わが国の景気は持ち直しつつある。	↗	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2009年11月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	↗	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2009年12月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。	↗	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年1月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年2月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年3月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	↗	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2010年4月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。	↗	東海3県の景気は、持ち直しを続けており、業種間・企業間の格差も徐々に縮小している。	↗	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、海外経済の改善や各種対策の効果などから、持ち直しを続けている。	⇒	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2010年5月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しを続けており、業種間・企業間の格差も徐々に縮小している。	↗	わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。	⇒	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2010年6月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。	↘	東海3県の景気は、生産の増勢が足もと一服しているが、全体としては持ち直しを続けている。	⇒	わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。	↗	景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年7月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。	↗	東海3県の景気は、生産の増勢が一時的に鈍化したものの、その後は再び増勢が戻りつつあり、全体として持ち直しを続けている。	⇒	わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。	⇒	景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年8月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しを続けている。	⇒	わが国の景気は、海外経済の改善を起点として、緩やかに回復しつつある。	⇒	景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

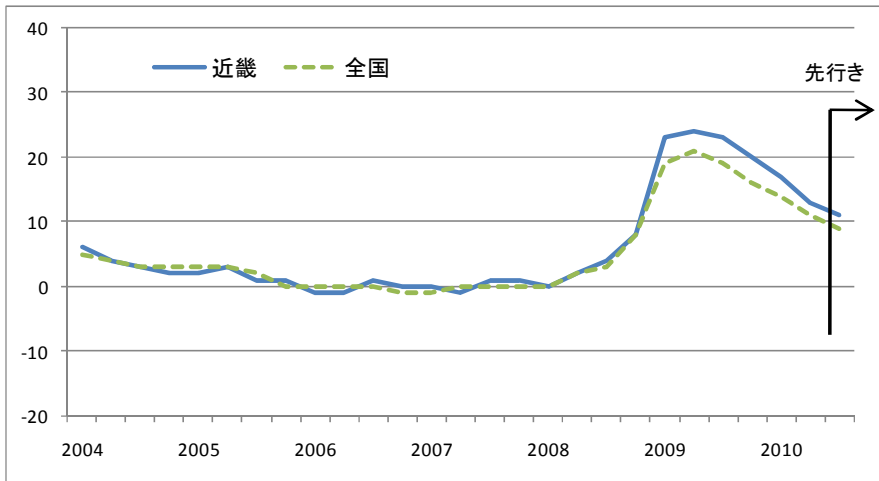
○日銀大阪支店は8月の景況判断を

「**近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。**」とした。(7月から継続)

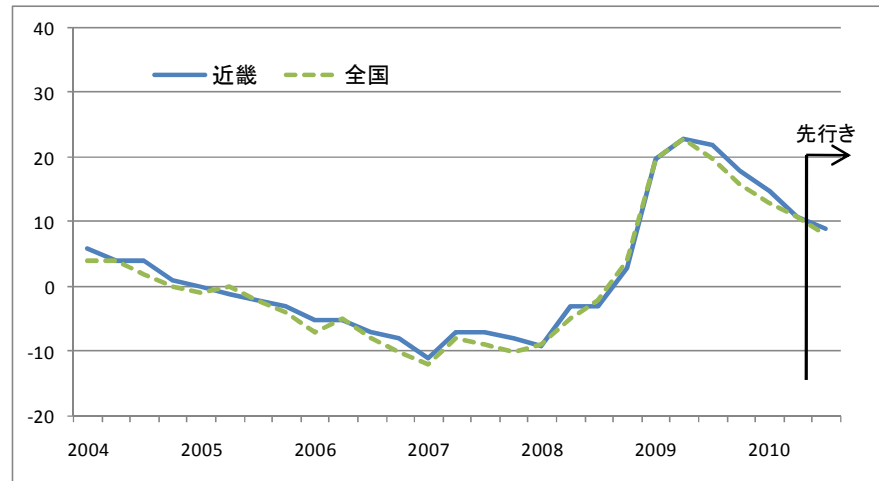
「すなわち、輸出は、アジア向けを中心に増加している。生産は、輸出の増加や省エネ家電への政策支援を背景に、増加している。このため、企業収益は、製造業を中心に改善が続いている。この間、内需についてみると、設備投資は、持ち直しつつある。個人消費は、耐久消費財が政策効果により持ち直している一方、雇用者所得が低調な地合いを続ける中、その他の分野では弱い動きが続いている。また、公共投資は、減少に転じつつある。」とした。

# ～日銀短観～

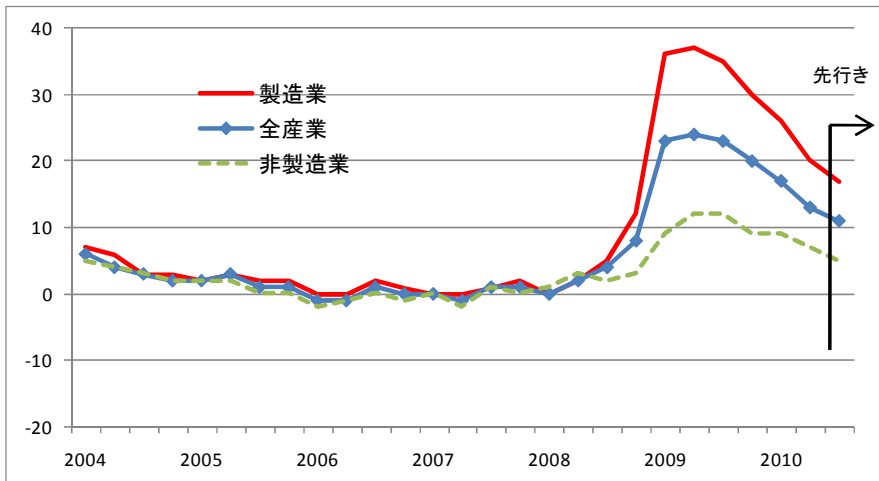
生産・営業用設備判断DI（「過剰」－「不足」）



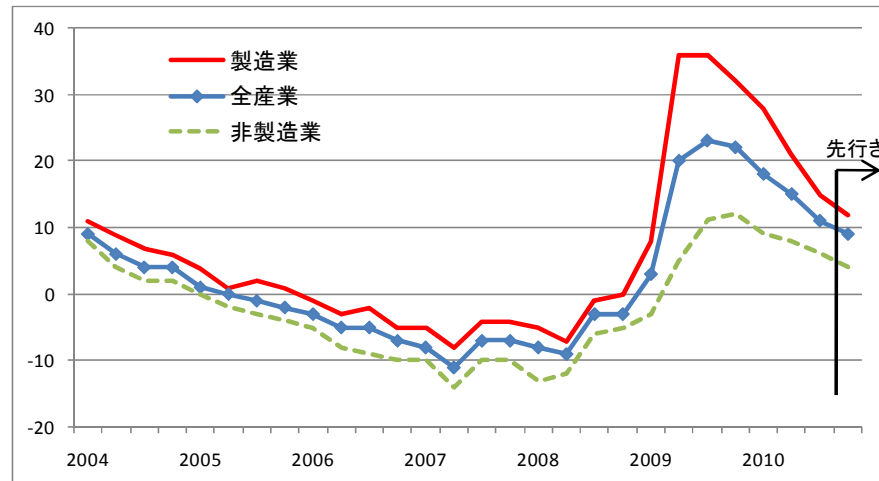
雇用人員判断DI（「過剰」－「不足」）



生産・営業用設備判断DI 近畿・業種別



雇用人員判断DI 近畿・業種別



○2010年6月の日銀短観によると、近畿の足下の設備判断DIは、全産業13、製造業20、非製造業7と、すべて前回調査時から改善。引き続き製造業で過剰感が高い。  
先行きは、緩やかながら改善の見込み。  
 ○全国も同様の傾向。

○2010年6月の日銀短観によると、近畿の足下の雇用人員判断DIは、全産業11、製造業15、非製造業6と、すべて前回調査時から改善。設備同様、製造業で過剰感が高い。  
先行きは、緩やかながら改善の見込み。  
 ○全国も同様の傾向。

## ～設備投資～

### 2010年度 関西地域設備投資動向

業種	2009年度 実績		2010年度 計画	
	関西	全国	関西	全国
	増減率	増減率	増減率	増減率
全産業	▲ 7.8	▲ 17.4	▲ 3.7	6.0
製造業	▲ 15.1	▲ 31.8	9.8	9.6
食品	▲ 34.9	0.5	44.7	0.1
繊維	10.5	▲ 61.3	▲ 16.1	▲ 7.7
紙・パルプ	▲ 24.3	▲ 41.2	▲ 30.8	3.9
化学	▲ 33.0	▲ 23.8	22.8	17.5
石油	96.2	32.0	▲ 48.3	▲ 31.7
窯業・土石	▲ 32.5	▲ 31.9	24.2	30.5
鉄鋼	▲ 12.6	0.9	0.9	▲ 10.4
非鉄金属	▲ 25.7	▲ 49.7	95.2	1.2
一般機械	▲ 14.9	▲ 43.3	▲ 11.2	▲ 0.4
電気機械	▲ 5.3	▲ 36.9	25.0	29.2
精密機械	▲ 40.0	▲ 40.0	2.9	2.6
輸送用機械	▲ 19.3	▲ 47.0	▲ 17.0	18.8

業種	2009年度 実績		2010年度 計画	
	関西	全国	関西	全国
	増減率	増減率	増減率	増減率
非製造業	▲ 1.3	▲ 6.4	▲ 14.1	3.9
建設	▲ 35.8	▲ 30.8	41.6	7.9
卸売・小売	▲ 23.1	▲ 10.3	▲ 26.9	▲ 13.2
不動産	14.0	▲ 10.6	▲ 26.2	1.2
運輸	▲ 27.7	▲ 0.1	▲ 11.4	2.8
電力	▲ 9.3	▲ 5.1	16.8	19.3
ガス	9.1	3.9	6.1	▲ 8.3
通信・情報	▲ 13.9	▲ 7.4	▲ 5.8	3.3
リース	523.0	5.9	▲ 58.3	9.8
サービス	▲ 17.8	▲ 24.0	▲ 39.8	▲ 6.8

(出所) 日本政策投資銀行関西支店  
(大企業・中堅企業：資本金1億円以上)

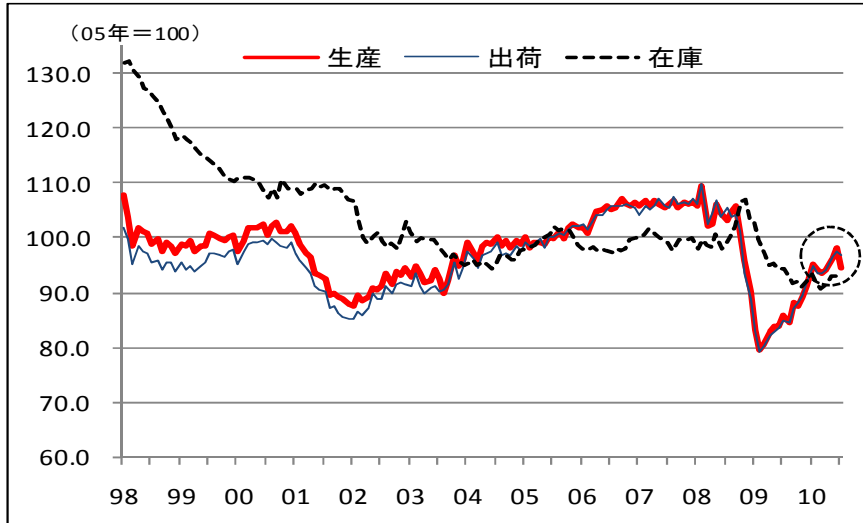
○日本政策投資銀行関西支店が8月3日に発表した「2010年度 関西地域設備投資動向」によると、

- ・ 関西地域の2010年度設備投資計画は、全産業で▲3.7%と2年連続で減少した。製造業が前年比+9.8%と2年ぶりの増加。非製造業は、不動産の特殊要因もあり▲14.1%と、3年連続の減少。
- ・ 全国は、全産業で+6.0%と3年ぶりの増加。製造業が+9.6%、非製造業が+3.9%。足下の収益改善を受けて電気機械、自動車を中心に増加。
- ・ 地域別では、関西・四国をのぞく8地域で増加。

- ・ 関西の製造業は、製油所高度化投資が完了する石油をはじめ、設備拡充が一服する一般機械や輸送用機械等で減少となるものの、薄型ディスプレイ、太陽電池及びリチウムイオン電池関連投資のある電気機械や、能力増強投資のある窯業・土石や非鉄金属、環境分野で研究施設新設等のある化学等で大幅増加となり、全体では増加に転じる。
- ・ 関西の非製造業は、船舶関連等で増加する建設、火力発電所整備工事の続く電力で増加するものの、前年度の大型中古資産売買の剥落の影響がある不動産、百貨店の建替関連投資が一服する卸売・小売等で減少となり、全体では3年連続の減少となる。

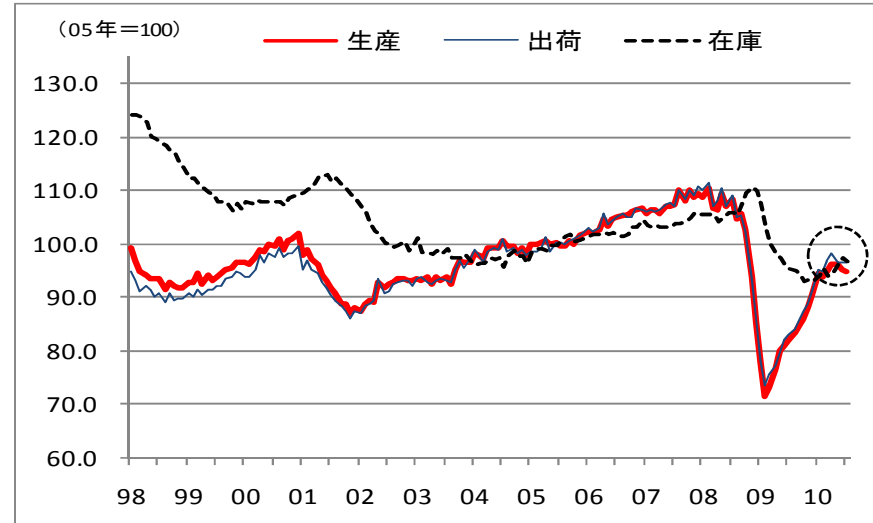
# ～生産～

鉱工業指数の推移（近畿 2010年7月速報まで）



(出所) 近畿経済産業局

鉱工業指数の推移（全国 2010年7月確報まで）



(出所) 経済産業省

業種別鉱工業  
生産指数  
(前月比、%)

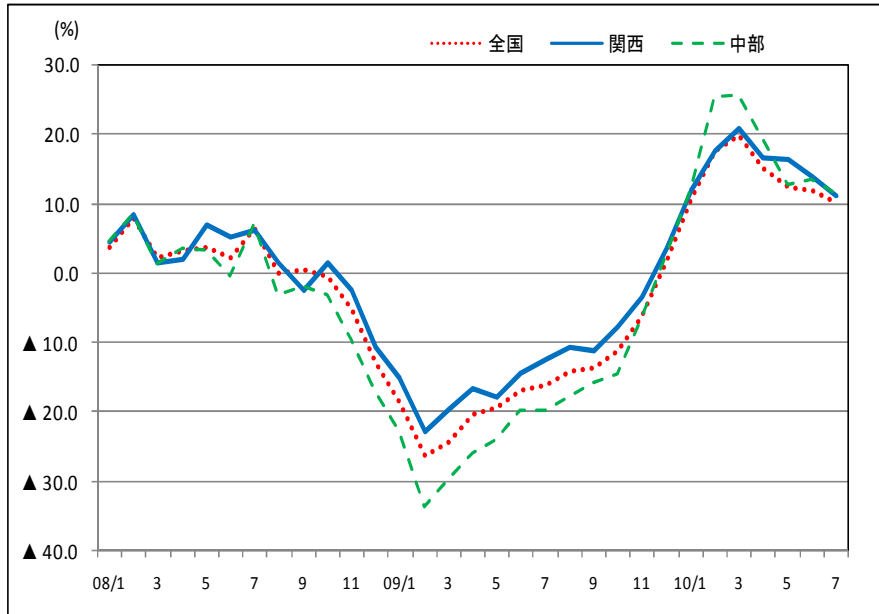
\*網掛は、生産が  
前月比プラスの業種

	全体	鉄鋼	金属製品	一般機械	電気機械	情報通信 機械	電子部品 デバイス	輸送機械	化学	食料品 たばこ
近畿4月	0.7	▲1.1	11.6	9.0	▲7.3	▲2.6	▲3.2	0.1	▲6.1	0.5
近畿5月	2.3	3.2	8.4	▲9.9	10.8	11.5	5.9	3.1	7.8	▲0.5
近畿6月	2.1	▲4.7	▲4.0	28.7	▲1.5	▲3.2	▲6.0	▲4.0	▲3.8	2.1
近畿7月	▲3.8	▲4.5	▲1.8	▲19.8	▲1.9	▲3.0	2.7	6.8	0.1	1.0
全国7月	▲0.2	▲5.1	0.0	4.3	▲0.6	▲0.9	▲0.2	▲1.4	▲4.2	1.6

- ・ 近畿の7月（速報）の鉱工業生産指数は、94.6。前月比▲3.8%と4カ月ぶりの低下。  
出荷は前月比▲0.6%の96.9と、4カ月ぶりの低下。在庫は、前月比▲0.3%の92.9と、3カ月ぶりの低下。  
 生産低下に寄与したのは、一般機械工業、鉄鋼業、電気機械工業等。  
 品目別にみると、蒸気タービン部品、無水酢酸、一般用バルブ・コックの順に低下に寄与。
- ・ 全国の7月（確報）の鉱工業生産指数は、94.8。前月比▲0.2%と2カ月連続の低下。  
出荷は、前月比▲0.1%の96.5と2カ月ぶりの低下。在庫は、前月比▲0.5%の96.7。  
 業種別では、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、鉄鋼業等が低下。上昇したのは、一般機械工業、電気機械工業、食料品・たばこ工業等。品目別にみると、医薬品、合成ゴム、普通鉄鋼帯、普通トラック等が低下に寄与。  
 製造工業生産予測調査によると、8月・9月とも上昇を予測。

# ～生産～

産業用大口電力需要（対前年伸び率・2010年7月まで）



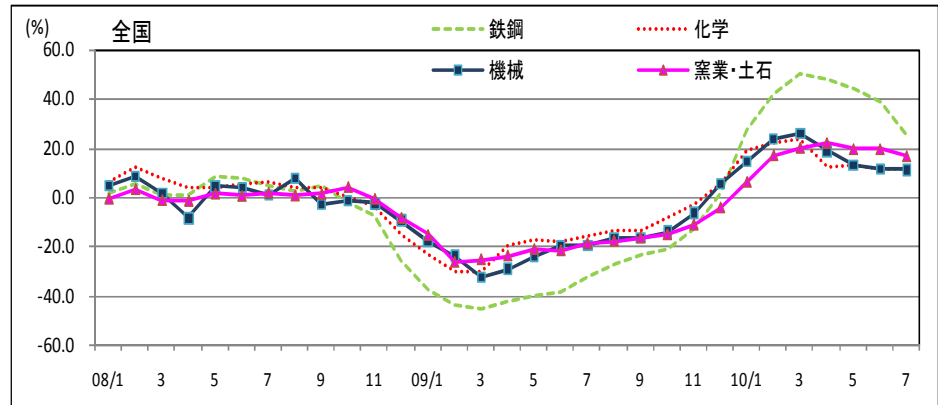
(出所) 電気事業連合会

・7月の関西の大口電力実績は、前年同月比+11.1%と、8カ月連続で前年実績を上回った。

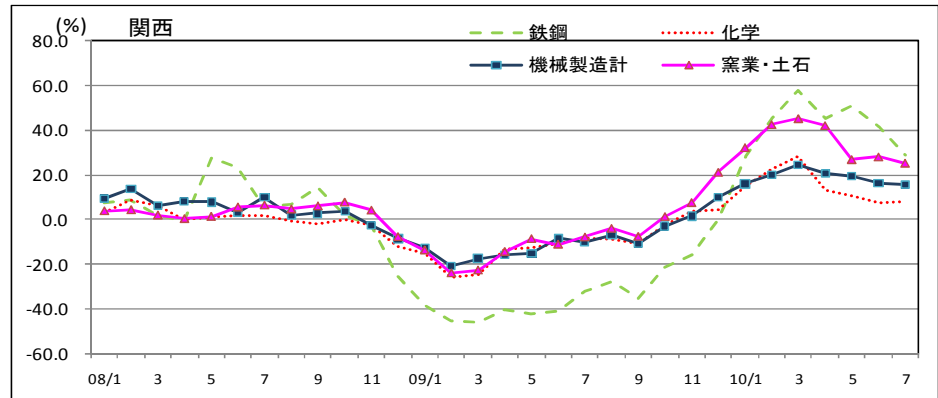
全国は+10.1%で、8カ月連続で前年実績を上回った。

・業種別(関西)では、製造業全業種で対前年比プラス。

大口電力産業別実績（対前年伸び率 2010年7月まで）



(出所) 電気事業連合会



(出所) 関西電力

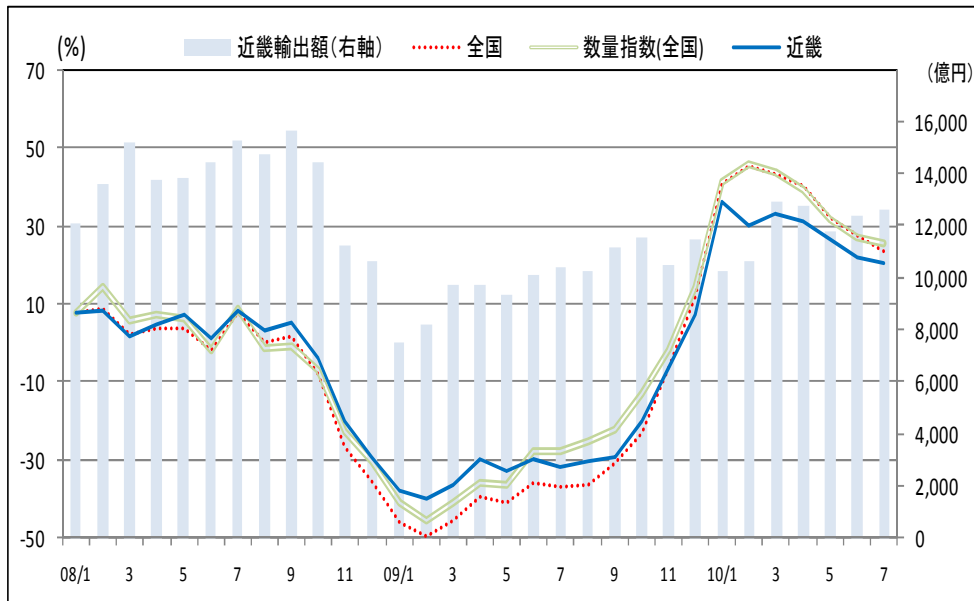
大口電力産業別実績（対前年伸び率 2010年7月まで・関西）

	食料品	繊維	パルプ・紙	化学	石油・石炭	ゴム製品	窯業・土石	鉄鋼	非鉄金属	機械製造計
3月	0.3	▲ 9.2	10.0	28.2	25.8	25.5	45.1	57.9	19.8	24.2
4月	▲ 2.8	14.1	8.5	13.2	9.6	21.1	42.0	45.2	15.2	20.5
5月	▲ 2.1	18.7	5.8	10.3	16.8	19.1	26.7	50.9	4.6	19.1
6月	1.2	11.0	5.2	7.6	56.9	17.6	27.9	41.3	1.2	16.3
7月	2.4	11.3	4.4	8.2	8.2	10.6	25.1	28.9	4.9	15.5

\* 網掛は、伸び率が前年比プラスの業種

# ～輸出～

## 輸出金額・前年同月比増減率推移（2010年7月速報まで）

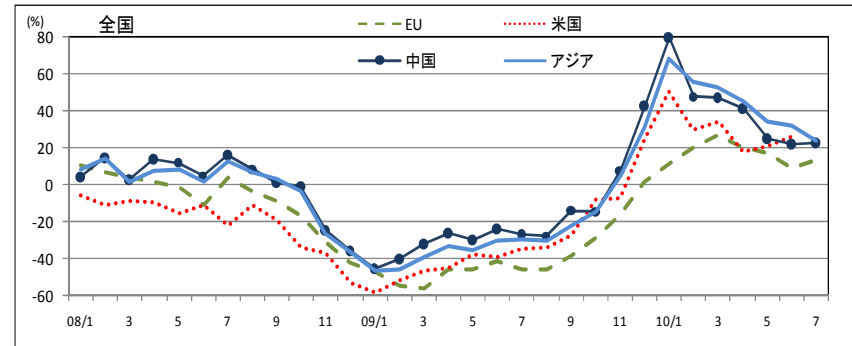
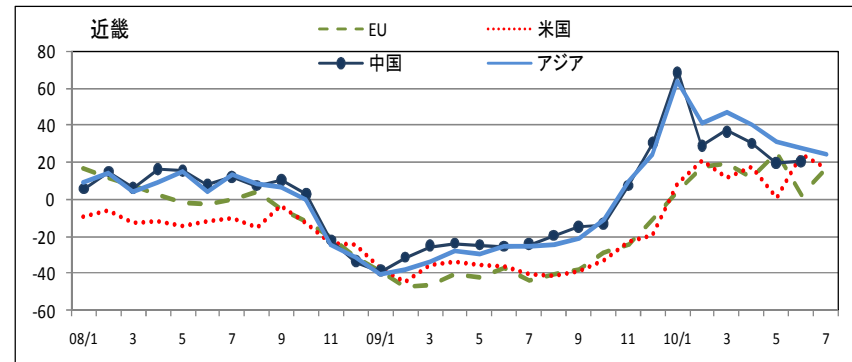


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

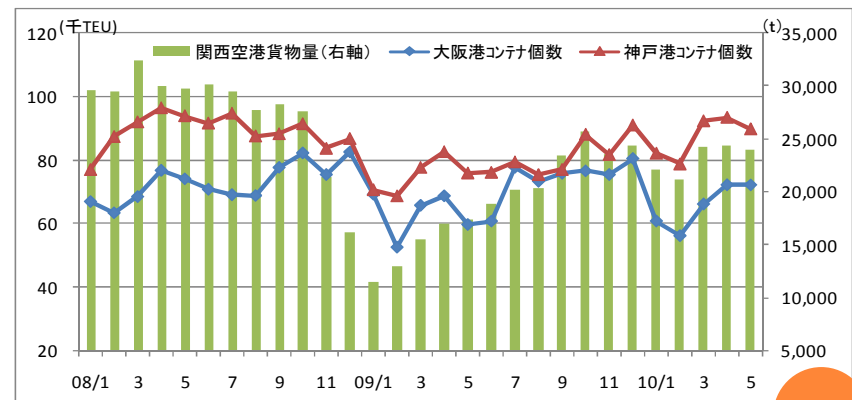
### ○近畿の月次の輸出動向（2010年7月速報まで）

- ・7月の近畿の輸出額は1兆2,660億円、前年同月比+20.9%と8カ月連続の前年比プラス。プラス幅は前月より若干縮小。
- ・地域別では、アジアが前年同月比+24.1%、うち中国が同+26.2%と、ともに9カ月連続のプラス。EUは同+16.6%、米国は同+16.9%と、ともに7カ月連続のプラス。
- ・品目別では、半導体等電子部品、建設用・鉱山用機械、半導体等製造装置、船舶、等が増加に寄与。中国向け液晶パネル、韓国向けフラットパネルディスプレイ用フィルム、等で著増。
- ・数量を表す貿易指数(全国7月)は前年比+25.5%と、7カ月連続プラス。
- ・関空の貨物量は09年1月を底に、大阪港・神戸港の貨物量は09年2月を底に、回復傾向。

## 地域別輸出金額・前年同月比推移



## 近畿・港別貨物取扱量（輸出）

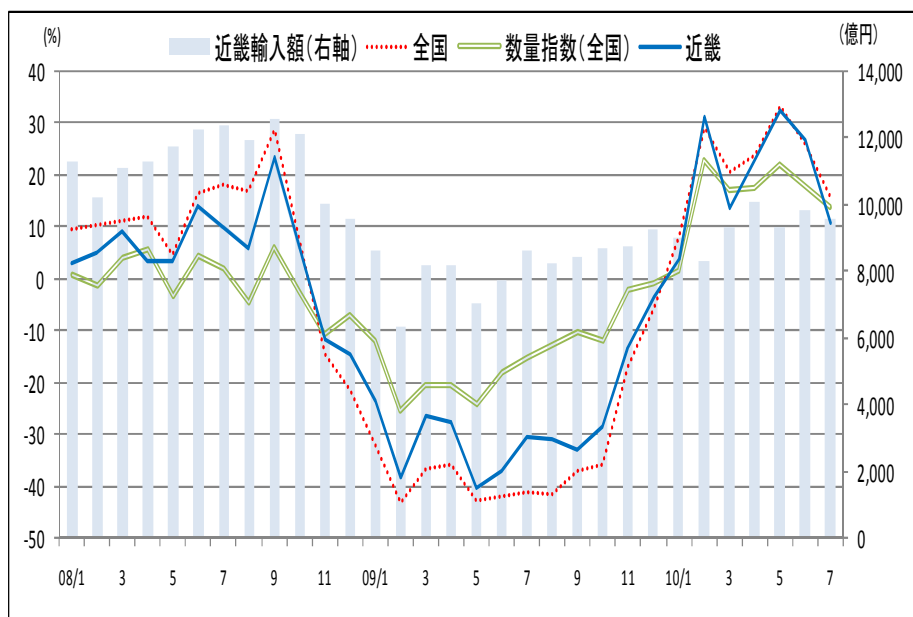


出所：大阪市、神戸市、関西国際空港株 資料



# ～輸入～

## 輸入金額・前年同月比増減率推移（2010年7月速報まで）

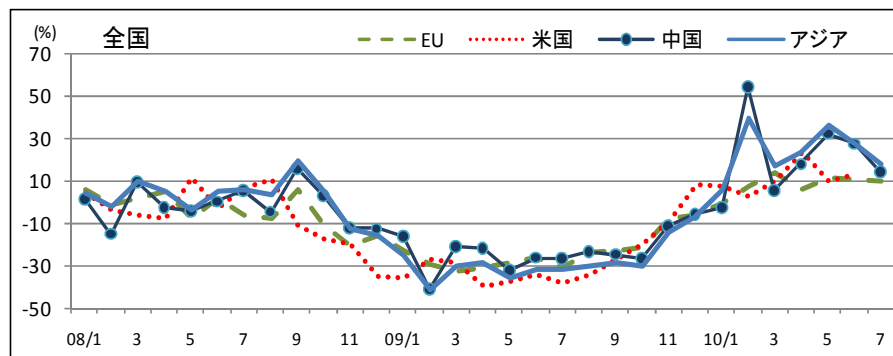
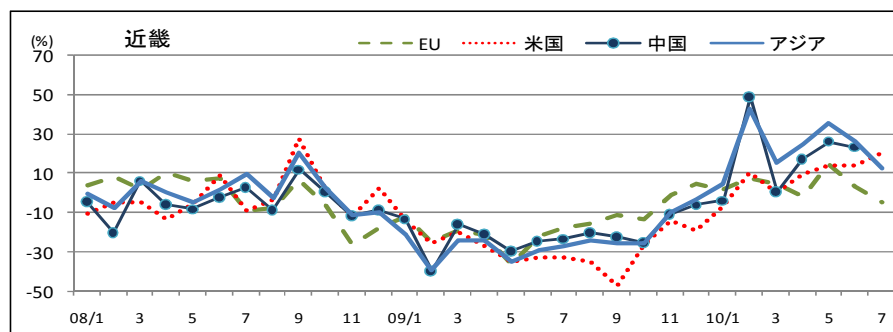


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

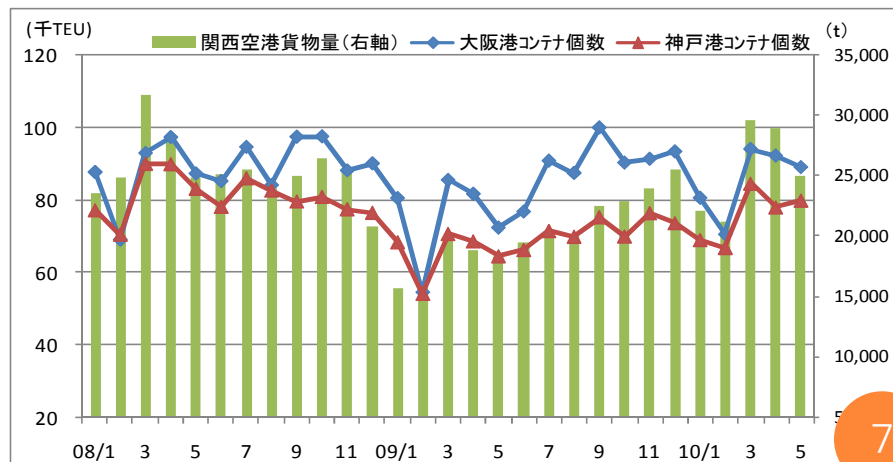
### ○近畿の月次の輸入動向（2010年7月速報まで）

- ・ 7月の近畿の輸入額は9,619億円、前年同月比+11.1%と、7カ月連続のプラス。プラス幅は前月より縮小。
- ・ 地域別では、アジアが前年同月比+12.5%と7カ連続のプラス。アジアのうち中国が同+26.2%、米国が同+20.7%と、ともに6カ月連続のプラス。EUが同▲4.6%と3カ月ぶりのマイナス。
- ・ 品目別では、鉄鉱石、天然ガス及び製造ガス、音響・映像機器(含部品)、原油及び粗油、等が増加に寄与。
- ・ 数量を表す貿易指数(全国7月)は、前年同月比+13.8%と、6カ月連続のプラス。
- ・ 関空の貨物量は09年1月を底に、大阪港・神戸港の貨物量は09年2月を底に、回復傾向。

## 地域別輸入金額増減前年同月比推移

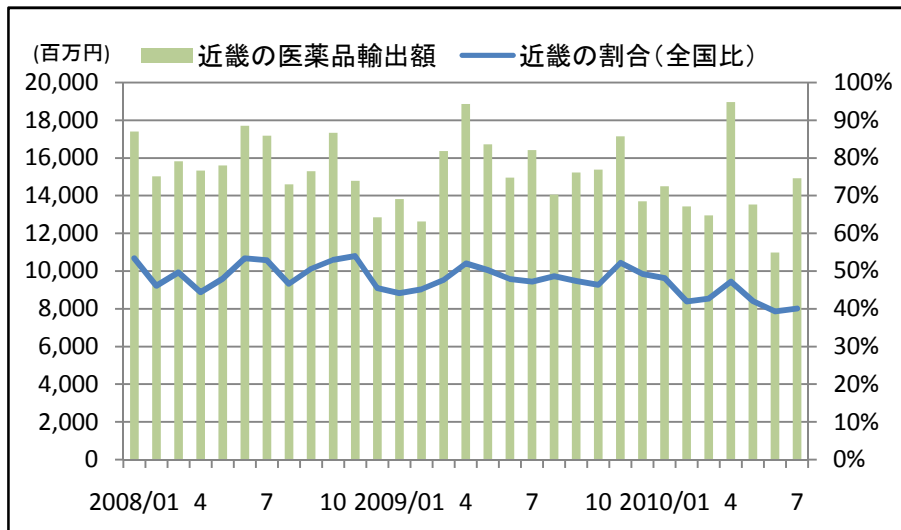


## 近畿・港別貨物取扱量（輸入）

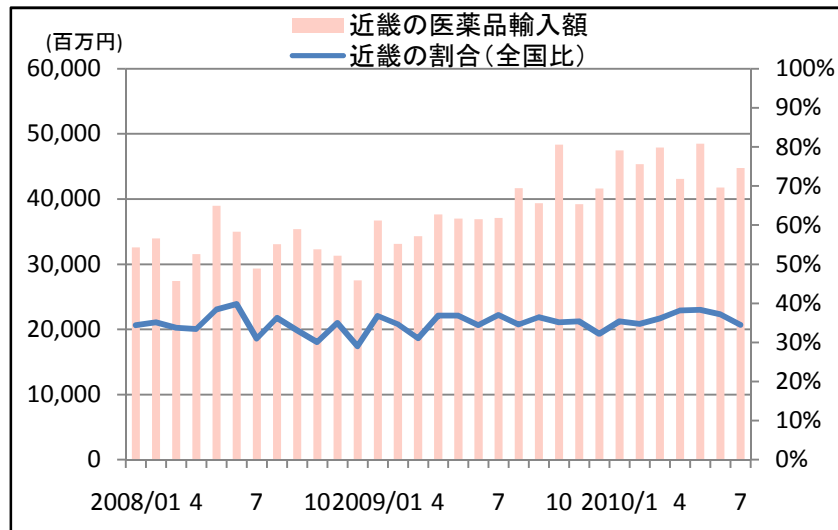


# 関西経済トピックス ～医薬品の輸出入動向～

近畿の医薬品輸出額の推移



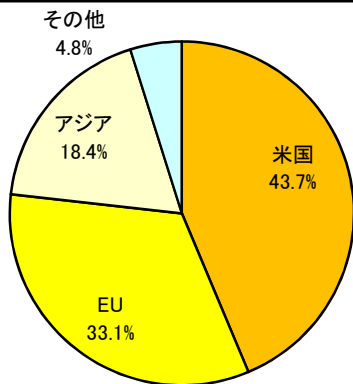
近畿の医薬品輸入額の推移



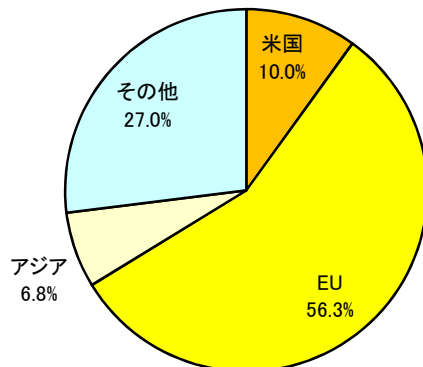
- 近畿の医薬品輸出額は、月により変動はあるが堅調な動きを続けている。  
7月の輸出額は、前年同月比▲9.0%と3カ月連続のマイナスではあるものの、  
輸出額は149億円と前月より増加。  
2009年、年間の輸出額は1,853億円、前年比▲1.9%。  
○7月の近畿の医薬品輸出額は、全国の40.1%と高い割合を占めている。

- 近畿の医薬品輸入額は、引き続き増加基調にある。  
7月の輸入額は447億円、前年同月比+20.6%の増加。  
2009年、年間の輸入額は4,631億円(前年比+19.2%)と、過去最高額。  
○7月の近畿の医薬品輸入額は、全国の34.4%と高い割合を占めている。

近畿圏の医薬品輸出先 (2009年)



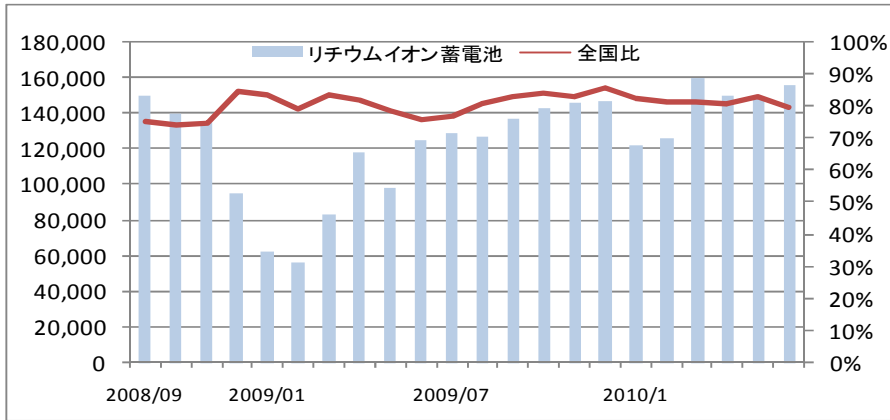
近畿圏の医薬品輸入先 (2009年)



- 近畿圏の医薬品は、輸出入とも全国に占める割合は高い。
- 輸出入先は、欧米の占める割合が高い。  
輸出先は、米国が43.7%、EUが33.1%を占める。  
輸入先は、米国が10.0%、EUが56.3%を占める。

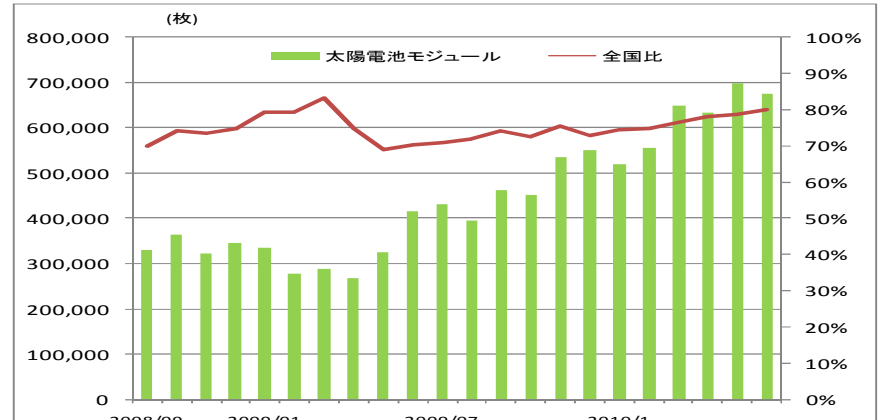
# ～電池産業の生産拠点集積～

リチウムイオン蓄電池 生産量の推移(近畿)



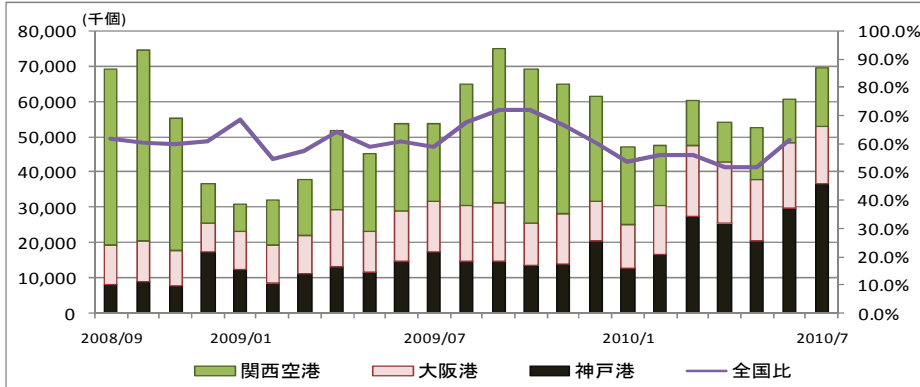
出所：経済産業省、近畿経済産業局 資料

太陽電池モジュール 生産量の推移(近畿)



出所：経済産業省、近畿経済産業局 資料

リチウムイオン電池(蓄電池) 輸出の推移(大阪港、関西空港、神戸港)



出所：財務省、大阪税関 資料

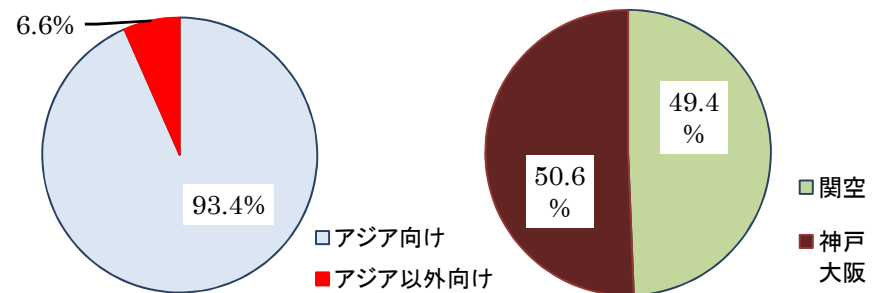
○近畿のリチウムイオン蓄電池の生産は、09年に入り落ち込んだが、足下回復基調が続く。2010年6月の生産量は、前年の反動もあり前年同月比+31.5%と大幅に増加。全国に占める割合も高く、6月は、79.6%。

○近畿のリチウムイオン電池の輸出は、09年に入り落ち込んだ後回復。足下は増加傾向にあり、ピーク時の水準を伺う勢い。7月の輸出量は、前年同月比+29.1%。全国に占める割合も高く、7月は、63.7%。

○近畿の太陽電池モジュールの生産枚数は、09年に入り、減少したものの、政策の後押しもあり、足下、増加傾向が続く。2010年6月は、676,029枚、前年同月比+62.3%と大幅に増加。

○全国に占める割合が70～80%台と高く、6月は79.9%。

2009年リチウムイオン電池 輸出先(大阪港、関西空港、神戸港) 及び、輸出港



○アジア向け輸出が93.4%を占めた。

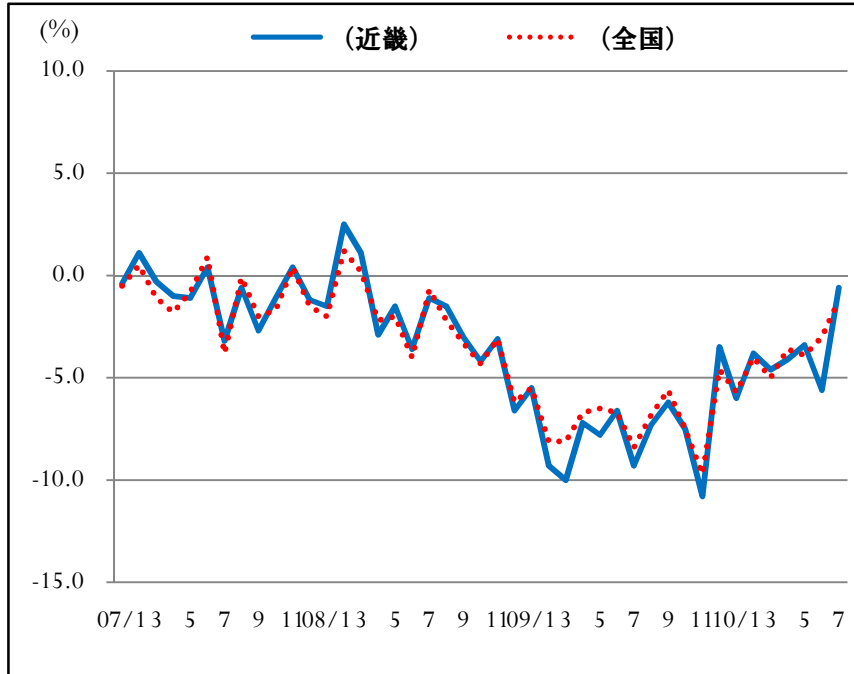
出所：財務省、大阪税関 資料

中国が56.2%と最も多く、韓国12.1%、香港9.2%と続く。

○輸出港は、大阪+神戸港50.7%、関西空港49.4%とほぼ同じ。

## ～個人消費～

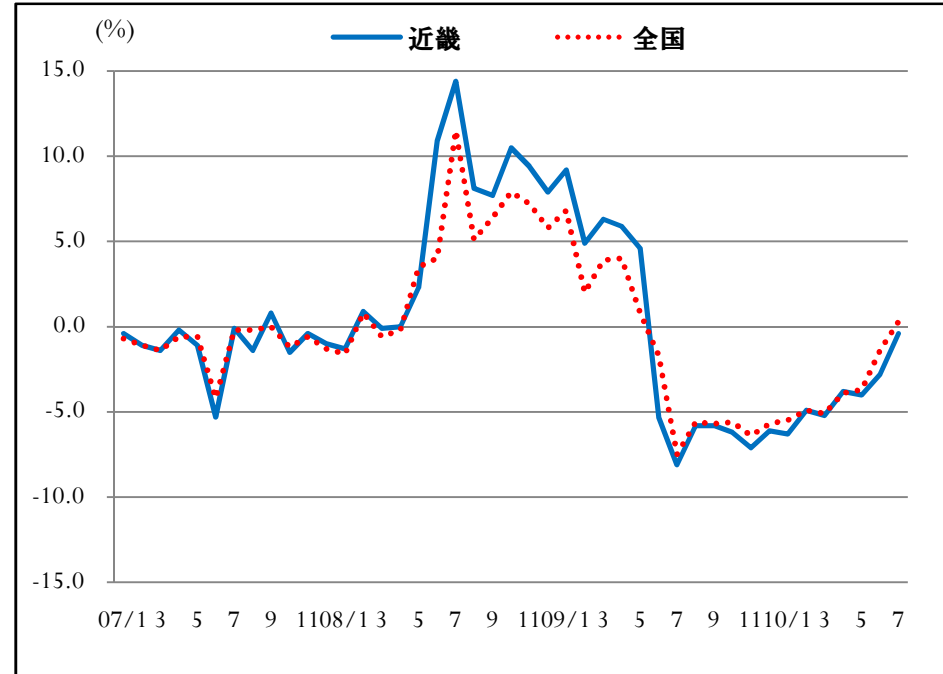
大型小売店売上高（前年同月比・2010年7月まで）



(出所) 近畿経済産業局

- ・ 近畿の7月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲0.6%と28カ月連続のマイナス。前月(▲5.6%)からマイナス幅は大幅に縮小。
- ・ 百貨店が同+1.5%と29カ月ぶりにプラスに転じた。一部店のお中元の経常月の変更、猛暑効果などによる。スーパーは▲2.2%と20カ月連続のマイナス。
- ・ 全国の大型小売店販売額は、同▲1.2%と、28カ月連続のマイナス。

コンビニエンスストア販売額（前年同月比・2010年7月まで）

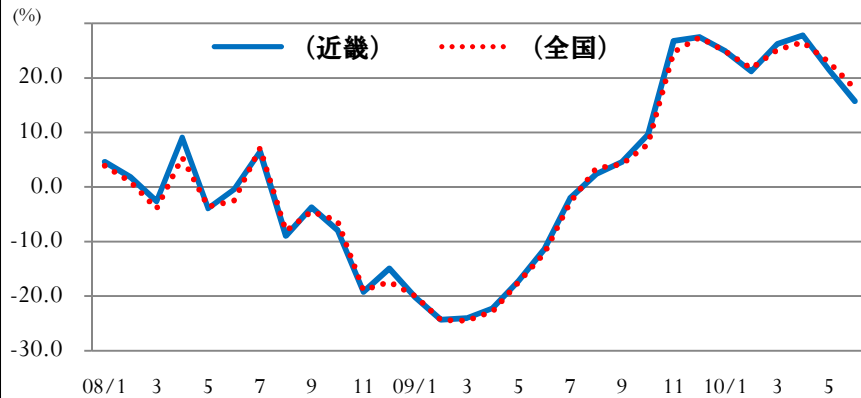


(出所) 近畿経済産業局

- ・ 近畿の7月のコンビニエンスストア販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲0.4%と14カ月連続のマイナス。前月(▲2.8%)からマイナス幅が縮小。
- ・ 全国は同+0.3%と、14カ月ぶりにプラスに転じた。猛暑の影響から、個別商品としてはアイスクリームや冷し麺、飲料など、夏物商材が好調。

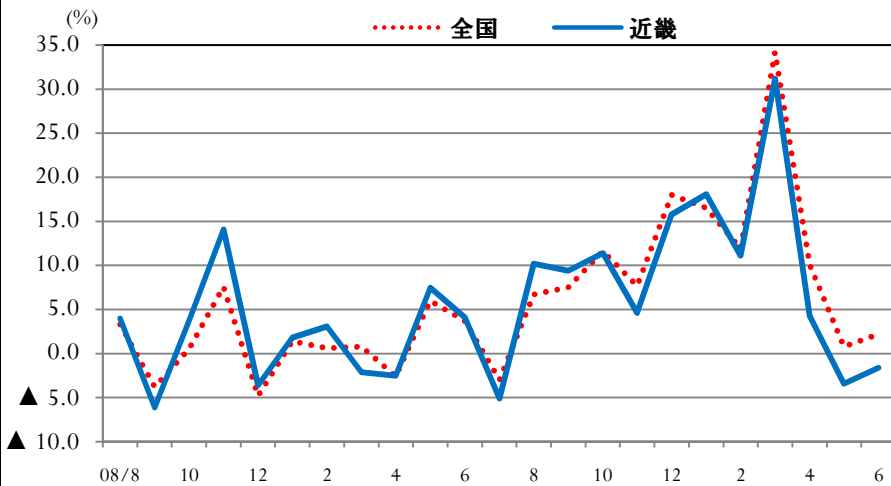
# ～個人消費～

新車登録台数（前年同月比・2010年6月まで）



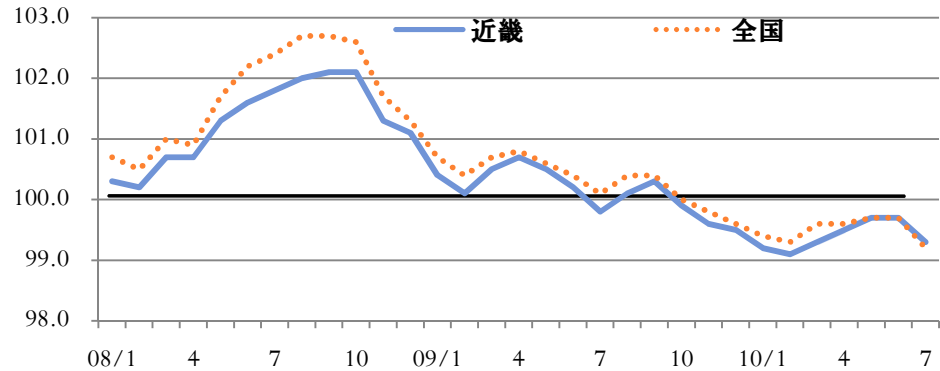
- ・近畿の6月の新車登録台数は、前年同月比+15.8%。  
車種別では普通車+22.5%、小型車+11.1%、軽四車+14.0%。  
(出所) 近畿経済産業局

家電販売額（前年同月比・2010年6月まで）



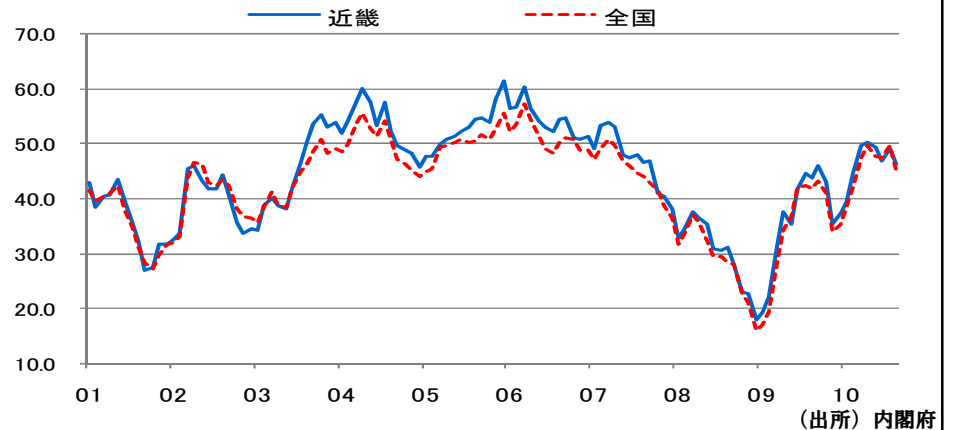
- ・近畿の6月の家電販売額は、前年同月比▲1.6%と、2カ月連続の前年比マイナス。洗濯機(+12.5%)等が前年を上回ったが、カラーテレビ(▲11.2%)、デジタルカメラ(▲8.7%)、等で前年を下回った。  
(出所) 近畿経済産業局

消費者物価指数（総合指数・2010年7月まで）



- ・近畿の7月の消費者物価指数(総合指数)は、前月から▲0.4%の99.3と、5か月ぶりの低下。前年同月比では▲0.5%の低下。食料(酒を除く)及びエネルギーを除く総合指数は97.1で、前月比▲0.3%、前年同月比▲1.2%と2カ月連続の低下。  
(出所) 総務省

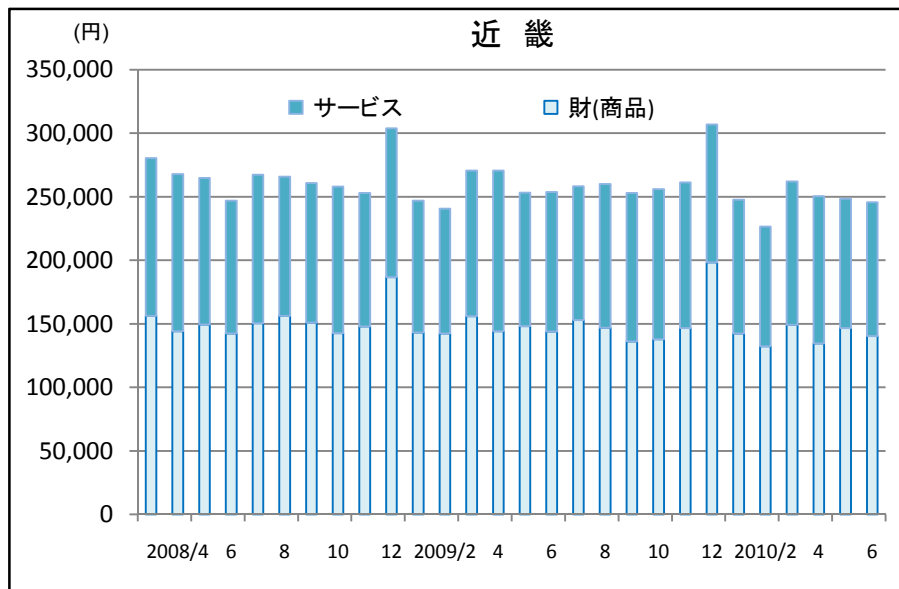
景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性 2010年7月まで)



- ・8月の近畿の現状判断DIは46.1で、前月比▲3.0ポイント、2カ月ぶりに低下。全国は前月比▲4.7ポイントの45.1。
- ・猛暑の影響で、夏物商品の販売は好調であるものの、客足の減少や秋物衣料の不振がみられたこと等から低下。企業動向関連DIは、急激な円高による輸出環境の悪化等から低下。
- ・近畿の先行き判断DIは41.2、前月比▲5.6ポイント。

## 【参考—個人消費 家計調査から】

財・サービス区分別支出の推移(近畿)

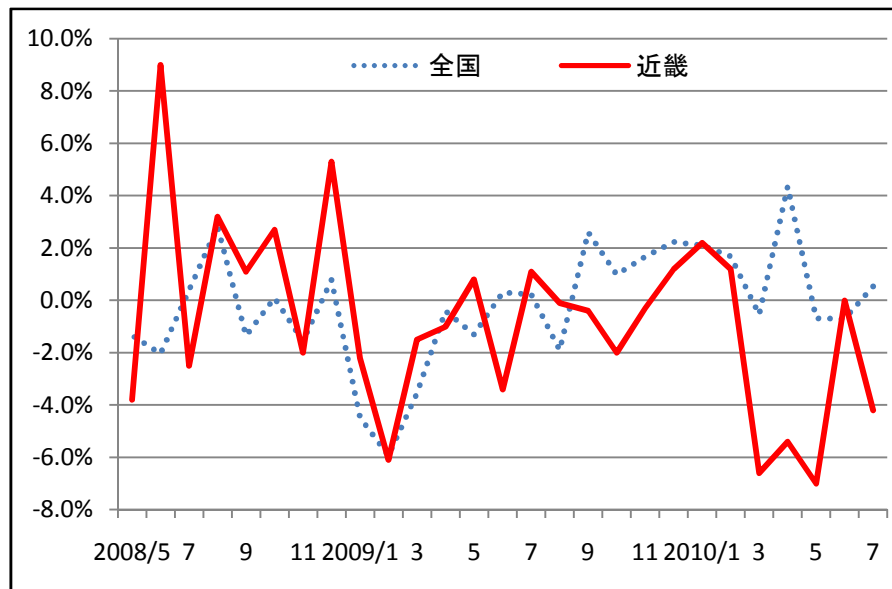


○家計調査によると、近畿の2010年6月の財・サービス区分別支出は、245,652円。前年同月比(名目)▲3.2%。前月(同▲1.9%)からマイナス幅は縮小した。

○内訳は、財(商品)が140,311円、前年同月比▲2.5%、サービスが105,341円、同▲4.1%。財、サービスとも、対前年同月比マイナスであるが、前月からマイナス幅は縮小。  
財の内訳は、耐久消費財18,967円、半耐久消費財21,763円、非耐久消費財99,580円。

○なお、全国の2010年6月の財・サービス区分別支出は245,496円、前年同月比▲3.1%。財(商品)が139,959円、サービスは、105,537円。

消費支出 対前年同月実質増減率の推移(全国・近畿)



○近畿の2010年6月の消費支出の、対前年同月実質増減率は▲4.2%、5ヶ連続のマイナス。前月(同▲3.3%)からマイナス幅は若干拡大。

内訳は、保健医療▲16.1%、教育▲15.4%、等がマイナス。プラスだったのは、光熱水道+2.5%、家具・家事用品+1.3%、等。

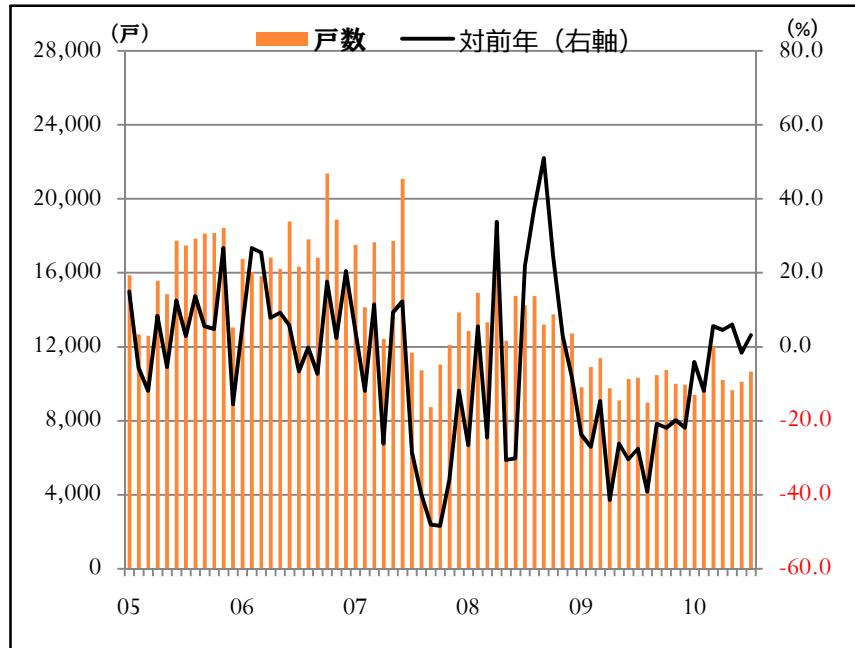
○全国は、+0.5%と、3か月ぶりのプラス。

内訳は、住居+8.9%、教養娯楽+8.2%、等がプラス。マイナスだったのは、保健医療▲8.1%、交通・通信▲4.3%等。

\* 近畿の対前年同月実質増減率比は、総務省資料に基づき当会にて計算。

## ～住宅投資～

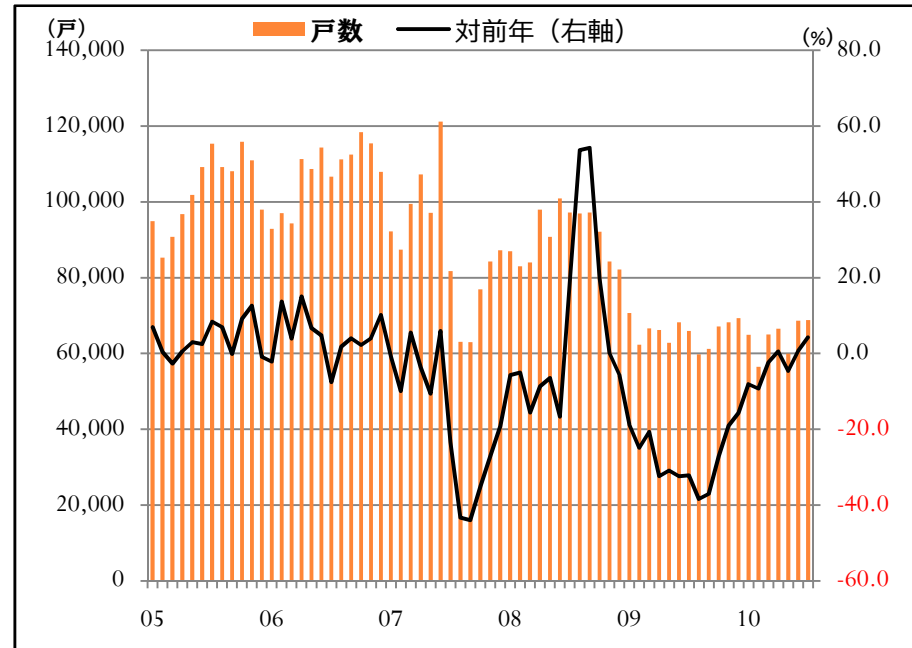
新規住宅着工戸数（近畿・2010年7月まで）



(出所) 国土交通省資料

- ・ 7月の近畿の新設住宅着工件数は10,656戸、前年同月比+3.2%。2カ月ぶりのプラス。
- ・ 利用関係別の7月の対前年同月比を見ると、持家が▲0.5%と10カ月ぶりのマイナス。  
貸家が▲7.7%と、2カ月連続のマイナス。  
分譲は+27.7%。分譲のうち、マンションが+95.9%と2カ月連続、一戸建て住宅が+5.4%と8カ月連続で、それぞれプラスとなっている。

新規住宅着工戸数（全国・2010年7月まで）

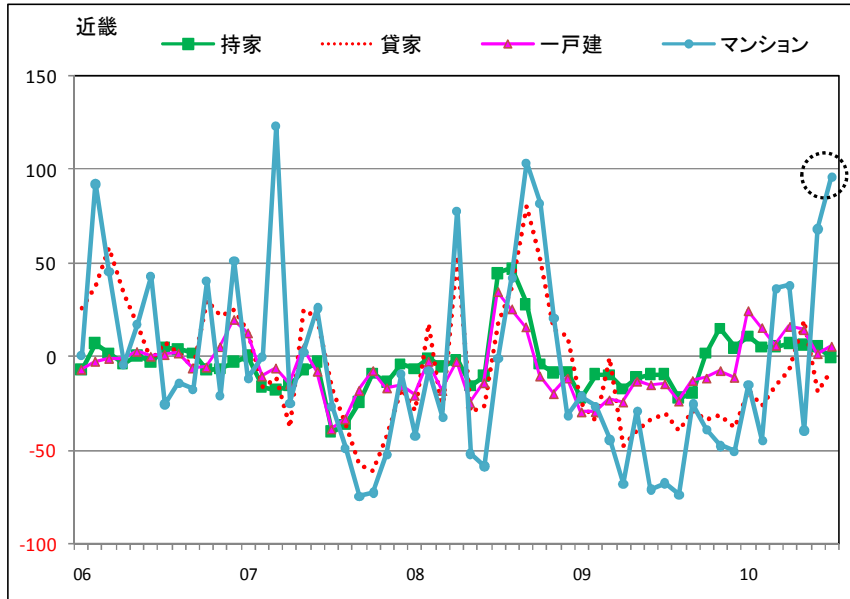


(出所) 国土交通省資料

- ・ 7月の全国の新設住宅着工件数は68,785戸、前年同月比+4.3%と2カ月連続のプラス。
- ・ 利用関係別に見ると、持家+4.4%、貸家▲5.9%、分譲+27.3%。分譲のうち、マンションが+37.5%、一戸建て住宅が+23.0%。  
持家が9カ月連続、マンションが2カ月連続、一戸建てが7カ月連続でそれぞれ増加。  
貸家は20カ月連続のマイナスとなっている。

# 住宅投資～近畿圏のマンション動向～

利用関係別 新規住宅着工戸数 前年同月比(近畿・2010年7月まで)

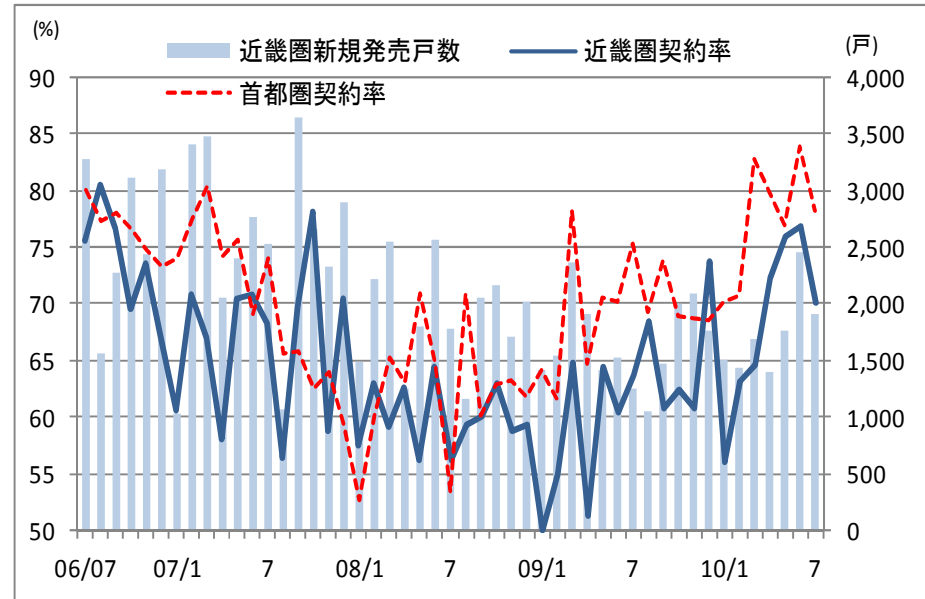


出所:国土交通省

- ・持家は、06年度は4,000戸前後で推移していたが、07年7月頃から2,500戸前後に減少。一旦持ち直したものの08年後半から再び2,000戸台に減少。足下は、政策の効果もあり、6月まで9カ月連続で前年同月比プラス。水準は低い、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち一戸建ては、足下、7ヶ月連続でプラス。政策の効果もあり、水準は低い、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち、マンションの新規着工戸数は09年6-8月の3ヶ月間、1,000戸を割り、大きく落ち込んだが、11月以降、1,000戸台で推移。10年3月には、08年4月以来23カ月ぶりに3000戸を上回り、持ち直していたものの、足下7月の新規着工戸数は1,397戸。

・引き続き、住宅版エコポイント等の経済対策の効果が期待される。

マンション契約率及び新規発売戸数(2010年7月まで)



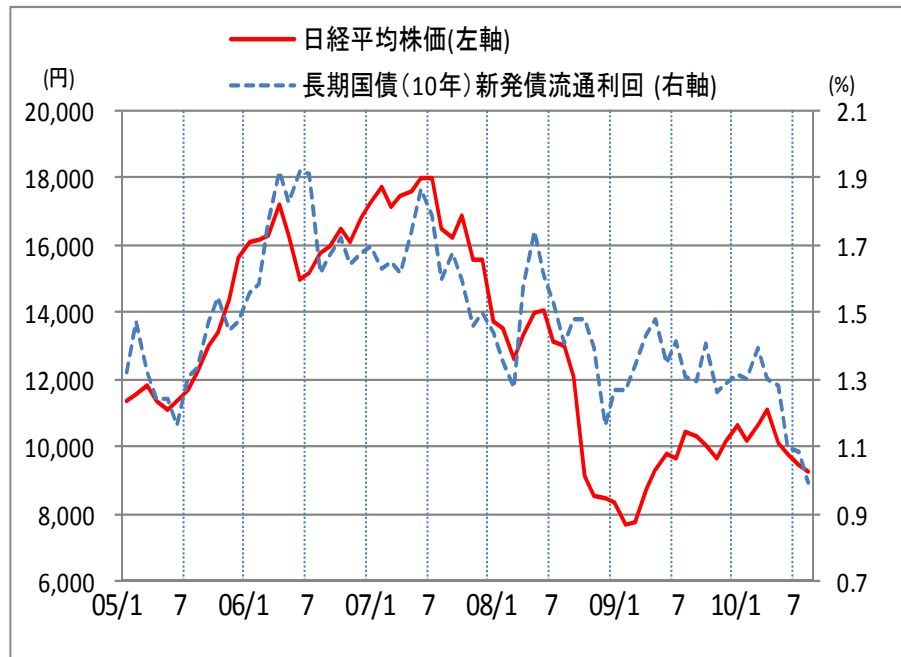
出所:不動産経済研究所資料

- ・近畿のマンション契約率は、09年に入り大きく落ち込み、50%台が続いたが、10年7月の契約率は70.2%。前年同月比+6.4の上昇。4カ月連続で、好不調の目安とされる70%を上回った。
- ・販売在庫は高水準ではあるものの、減少傾向が続く。7月末の在庫は4,047戸、前月末比51戸の減少。
- ・首都圏は、価格が下がっていること、人口の流入が続いていることもあり、近畿と比べると契約率は高い傾向にある。



## ～株式・長期金利～

日経平均株価(期中平均)・長期国債新発債流通利回(月末)  
(2010年8月まで)

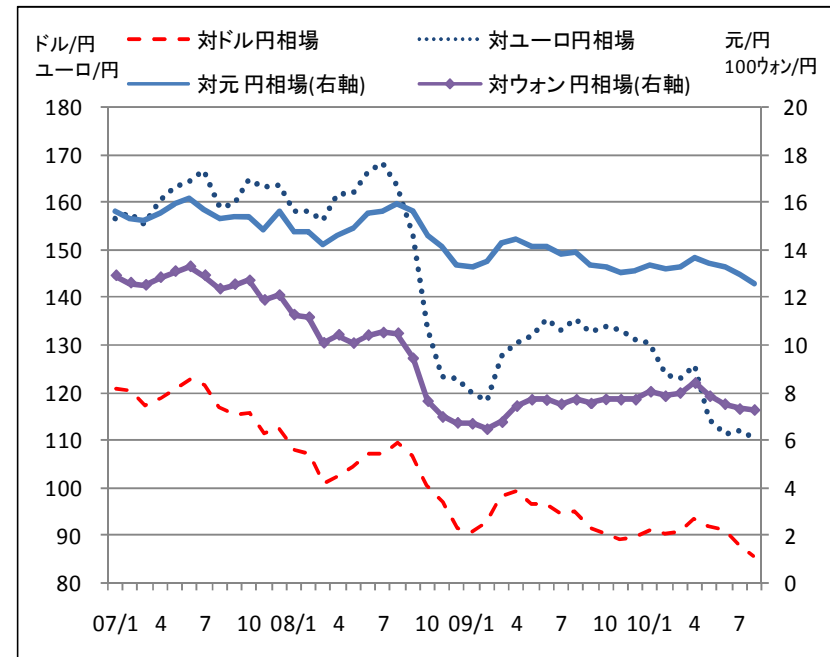


(出所) 日本経済新聞社

- ・8月の日経平均株価(期中平均)は9268.24円で、7月より188.6円の低下。
- ・8月末の長期国債(10年)新発債流通利回りは、年率0.992%、6月末から0.089%低下。  
2003年8月以来、約7年ぶりとなる水準に低下。

## ～為替相場～

為替相場の動き(期中平均値・2010年8月まで)

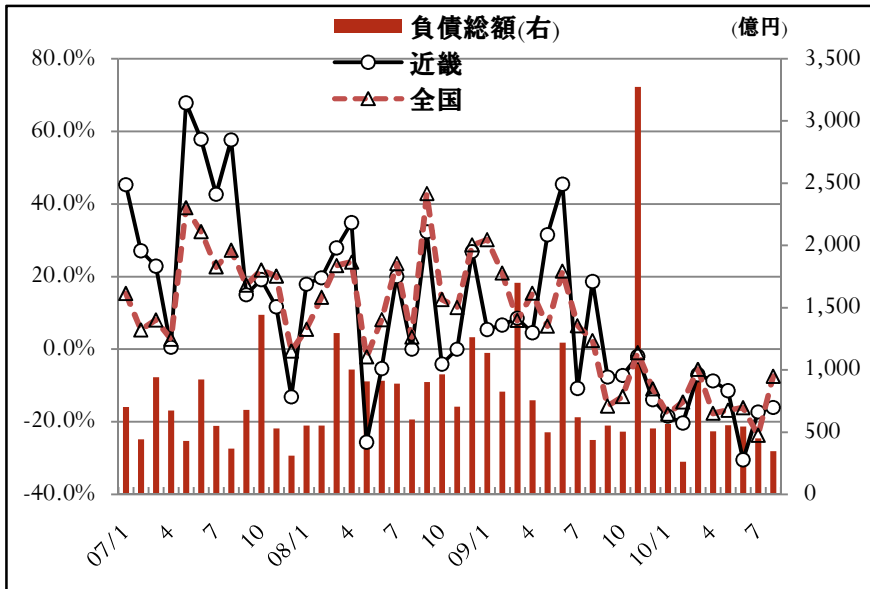


(出所) 日本経済新聞社、三菱UFJリサーチ&コンサルティング

- ・8月の対ドル円相場(期中平均)は85.50円で、7月より2.25円の円高。
- ・対ユーロ円相場は110.31円で、7月より1.49円の円高。
- ・対元円相場は12.58円で、7月から0.35円の円高。
- ・対ウォン円相場(100ウォンにつき円)は7.25円で、7月より0.04円の円高。

# ～倒産～

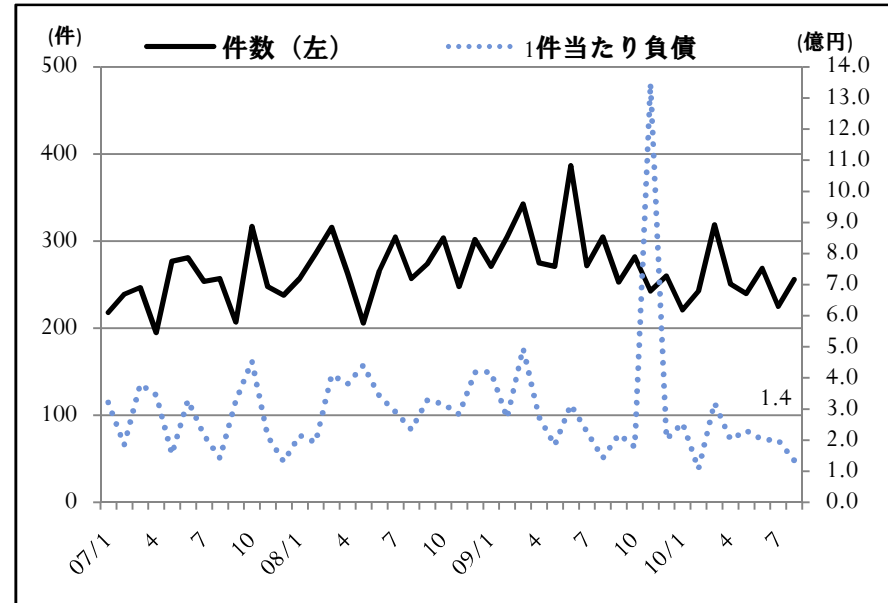
倒産件数前年同月比・負債総額の推移（10年8月まで）



(出所) 帝国データバンク

- ・ 2010年8月の近畿の倒産件数は256件。
- ・ 近畿の負債総額は346億円  
(前年同月比▲20.9%、前月比▲23.0%)。
- ・ 全国の倒産件数は964件(前年同月比▲7.5%)。  
全国の負債総額は、1,692億円(前年同月比▲38.5%)。

近畿の倒産件数と1件当たり負債額の推移



(出所) 帝国データバンク

- ・ 8月の近畿の倒産件数は、前年同月比▲16.1%と、12カ月連続で前年同月を下回る。
- ・ 負債総額は3カ月連続で前年同月を下回る。
- ・ 1件当たり負債額は1.4億円。

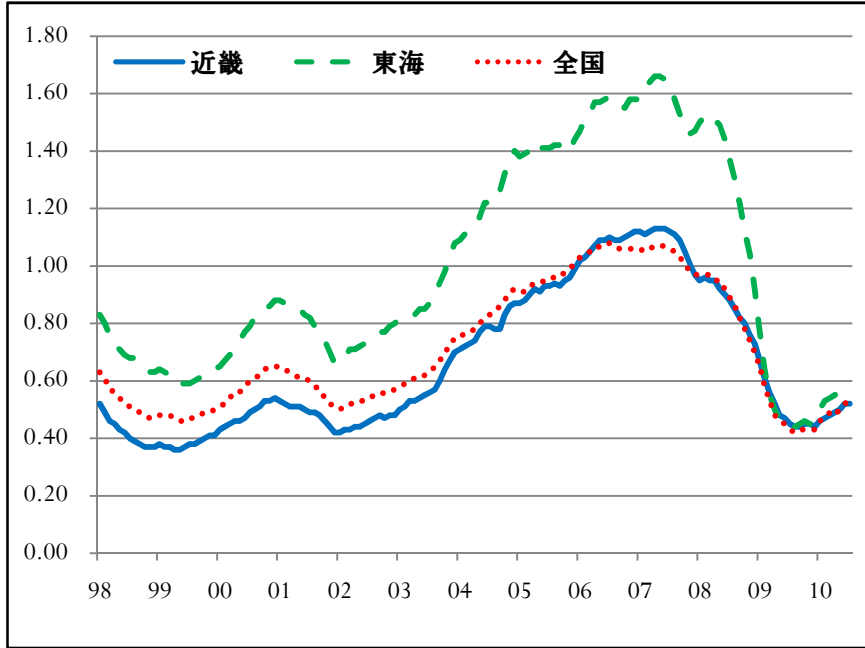
2010年8月以降の近畿の大型倒産

(負債総額・億円)

8月	石本紙工(株)	大阪	印刷	40
	(株)エヌズ	大阪	スキューバダイビングショップ経営	20
	日野薬品工業(株)	滋賀	家庭医薬品製造	18
	(株)NESTAGE	大阪	家庭用ゲームソフト販売	15
	(株)ゼロインターナショナル	大阪	バッグ卸、小売	15
	(株)ナガタ	兵庫	物流機器製品製造	12

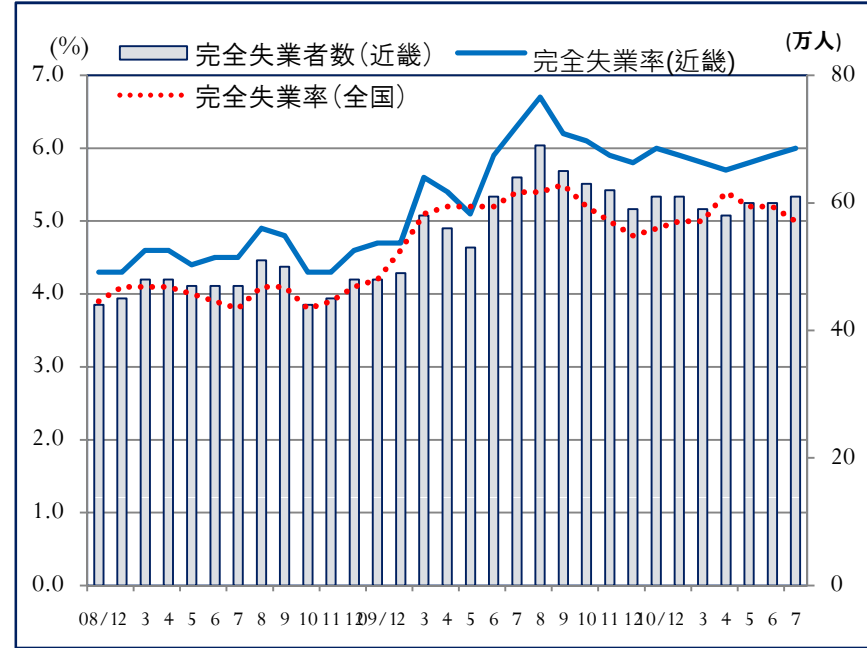
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・2010年7月まで）



(出所) 厚生労働省統計

完全失業率の推移（原数値・2010年7月まで）



(出所) 総務省統計

地域別有効求人倍率（2010年7月：下段は前月比）

全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
0.53	0.42	0.45	0.52	0.58	0.63	0.60	0.52	0.65	0.65	0.45
0.01	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.02	0.00

- ・2010年7月の近畿の有効求人倍率は、前月から横ばいの0.52倍。  
63年以降の最低値は99年4～5月の0.36倍。
- ・全国は0.53倍で、前月から0.01ポイント上昇。  
地域別に見ると、近畿・九州で横ばい、その他の地域はすべて上昇。

- ・2010年7月の近畿の完全失業率(原数値)は6.0%で、前月(5.9%)から0.1ポイント上昇。3カ月連続の悪化。
- ・全国の完全失業率(原数値)は5.0%と、前月(5.2%)から0.2ポイント改善。
- ・全国7月の季節調整値は5.2%、前月(5.3%)から0.1ポイント改善。
- ・83年以降、失業率の最悪の値(原数値)は、近畿7.1%(02年7～9月期)、全国5.5%(02年4～6月期、03年1～3月期、4～6月期)。